

信念が、世の中を変えていく。「One's Way」でいこう。

iSM X インターナショナル



撮影 / 我谷康宏

## 日本にいなながら日常的に 異文化交流体験を

社会のグローバル化が一層進み、国際人の育成が急務といえる日本。たとえば英語力は、最低限をなえるべきコミュニケーションツールだが、使える「英語力が身につかない日本の語学教育を問題点にあげる声は少なくない。

帝京大学は2016年、八王子キャンパスに外国語学習ラウンジ「Teikyo Language Commons (TeLaCo:テラコ)」をオープンした。語学関連の学生サポート機能を一カ所に集約した施設で、全学部の学生が利用可能。6カ国語(英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語)の学習支援が行われている。

TeLaCoの特長は、新しい概念の学習環境にある。施設内は、機能が異なる複数のエリアで構成。まずエントランスに入ると、上の写真に写るカフェテリア風の「Global Square」が気分を盛り上げてくれる。そこは、常駐するネイティブスピーカーとの会話や、スタッフがMCを務める語学学習番組や外国の動画を150インチの大型スクリーンで楽しめる空間。世界各国の留学生も訪れ、人や情報が数々のインスピレーションを与えてくれる。

その他、「Global Study」は落ち着いた学べる書斎のような空間で、棚には語学教材のほか海外映画のDVDや音楽CDも並ぶ。個別ブースも併設されており、自分のペースやスタイルで学習ができる。「Global Park」にはビタミンカラーの机や椅子が置かれ、トークショーなどのイベントを定期的に開催。プロジェクターを設置の「Active Learning Room」は、グループワークに最適な環境といえる。

驚かされたのは、本格的なキッチンスペースまで設けられていること。「World Kitchen」と名付けられ、世界各国の料理を作るイベントが月2回のペースで開催されている。訪れた日のお題はバリエアで、参加した日本人学生と留学生が英語で連携をとりながら調理し、異文化交流

を楽しんでいた。食は、会話を弾ませ、相互理解を促す格好のテーマである。お気づきのように、この施設では通常の語学授業は行われていない。あくまでも語学学習の支援施設だが、語学力の向上だけを目的としない点も注目に値する。どのような狙いからオープンされたのか、気になる方も多いだろう。

TeLaCoのコンセプトは、「キャンパスのなかにある小さな異国」。外国人と物事に取り組める機会を創出し、言語の違いを取り払うためのアイデアや仕掛けは枚挙にいとまがない。実際、足を踏み入れた瞬間からワクワクし、語学力に自信がなくても自ずとコミュニケーションをとりたくなる。利用する学生は増え続け、1日200人に迫ることもあるという。リビーターの多さも支持されている証しである。この施設には、語学教育の本質に迫るISM(イズム)が流れている。それは、「日常的にグローバル体験ができること。日本にいなながら、まるで留学生生活」といえる時間を過ごせる環境づくりに、国際性を身につける糸口を感じた。



左:「World Kitchen」で毎月開催されるクッキングクラスは、定員がすぐ埋まる盛況ぶり。日本人学生と留学生で料理をした後は、味わいながら互いの文化を語り合う。右:気軽に国際交流ができる「Global Square」。テーブルには“会話がしたい”と意思表示できるカードを設置。語学力に自信のない学生の背中を押すアイデアだ。

帝京大学

本部広報課 TEL.03-3964-4162  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 <http://www.teikyo-u.ac.jp/>